タイ人日本語学習者の辞書使用状況の調査

タサニー　メーターピスィット
タマサート大学教養学部日本語学科

キーワード：日本語教育、辞書使用、学習スタイル、語彙習得

１．本稿の目的

何語であれ，外国語学習に辞書は欠かせない道具であることは言うまでもない。特に自力で新語の読み方や意味を確認し，自律的な学習をする場合，辞書は最も心強いツールであり，学習リソースである。近年、知らない語の意味を理解するために学習者が使用するツールは，多様化している。書籍の辞書，電子辞書に限らず，最近ではウェブ辞書，携帯電話用の辞書アプリなども盛んに使用されるようになりつつある。このような多様化の時代における，タイ人日本語学習者の辞書の使用状況についての研究は，まだ行われておらず、日本語教育の現状の把握という面でも調査する必要がある。本稿は，タマサート大学の日本語学科で学ぶ学生を対象にアンケート調査を行い，その結果を分析し，辞書使用の実態を報告し、さらに調査の結果を踏まえ，日本語学習における今後の辞書使用のありかたについて考察を試みたものである。

２．タイ人日本語学習者の辞書使用について

現在，日本語学習者が主に利用している辞書には，書籍の辞書，電子辞書，ウェブ辞書，そして携帯電話用の辞書アプリ，の 4 つがある。タイでは，それぞれどのような辞書がよく使われているか，以下に紹介する。

２．１　書籍の辞書

タイにおける日本語教育は，1960 年代から始まり，現在では日本語学習者数は約 13 万人にのぼっている（2012 年現在）。日本語学習者の増加に伴い，日本語の教科書や参考書等とともに，辞書類も多く出版されるようになり，量的にも質的にも充実してきている。

タイ国内において日本語教育関連の書籍を最も多く出している日泰技術振興協会の出版社（通称ソーソートー）からは，12 種類の書籍の辞典が出版されている。

表１　日泰技術振興協会の出版社の書籍の辞書

	タイトル		タイトル
1	漢字辞典(携帯タイプ）1945 字	7	実用タイ日辞典用例集　8000 語　1056 ページ
2	漢字辞典　29000 語　1600 ページ	8	技術用語辞典　386 ページ
3	日ータイ辞典 40000 語　1120 ページ	9	観光用語タイー日辞典　544 ページ
4	日タイ口語辞典　968 ページ	10	ビジネス日本語用例辞典 2220 語 544 ページ
5	日本語学習使い分け辞典　768 ページ	11	絵を見て単語を覚えよう　256 ページ
6	日本語文型辞典（タイ語訳）856 ページ	12	日･タイ･英社内通訳用語辞典　20000 語 464 ページ

これらの書籍の辞書は多くのタイ人日本語学習者が利用しているが，電子化はされていない。

２．２　電子辞書

電子辞書は 1980 年代に広まり始めたが，一般に当時のタイでは電子辞書を入手することが困難であった。高額なうえ，日タイ辞典が存在しなかったである。代わりに書籍の国語辞典または和英辞典を頼りにするほかなかった。

現在でも，タイ国内で販売されている唯一の電子辞書は，サイバーディクトテクノロジー株式会社（1996 年に設立されたアメリカの Wang Laboratories Inc グループ会社であり，また台湾の Inventec Besta 社の支店）で製造されているものであり，4 言語搭載の多言語電子辞書である。旅行の際に使用される語彙・表現やサバイバル表現を扱った電子辞書に関しては，13 言語を搭載しているものがあり，それにはタイ語も含まれているが，日タイ辞典専用の電子辞書は現在まだ存在しない。

２．３　ウェブ辞書

ウェブ辞書にはいろいろな種類があるが，　ここではいくつかを紹介する。

ア）富田（2003)『タイの人々のための日タイ・タイ日辞典』改訂新版

これ<http://cblle.tufs.ac.jp/dic/th/jath/> 及び ＜http://cblle.tufs.ac.jp/dic/th/thja/> は，タイ人が日本語を学ぶための辞典として編纂されたものであり，タイ語及び日本語の見出し語はそれぞれ約 20,000 語にのぼる。日本語教育への応用を目的に，電子化され，2010 年より東京外国語大学のウェブサイトにおいて一般公開されている（峰岸(2010)）。

図１　富田『タイの人々のための日タイ・タイ日辞典』

イ）ジェーティーディック

これ<http://www.jtdic>　は，10 年ほど前にウェブ辞書として公開され，定期的にバージョンが改訂されている日本語・タイ語の両言語から検索可能である。シンプルなウェブ辞書であったが，現在では携帯電話用の辞書アプリとして活用され，かなり多くのタイ人日本語学習者に浸透している。収録語数は定かではないが，約 50,000 語と推定される。

ウ）http://www.j-doradic.com/>　は，タイ人の日本語学習者が作ったサイトであり，タイ-日，日-タイのオンライン辞書機能がある。ゲームやアニメが好きな会員のコミュニティーサイトであり，26,000 人以上のメンバー達が自ら編纂に参加し作成していくタイプの辞書である。新語や俗語などが定期的に追加登録されている。

図３　「ドラディック」日タイ辞書

エ）ロンドゥー

これ<http://dict.longdo.com/search/> は，タイ語で「試してみよう！」という意味であり，４人の開発者により構築された大型ウェブ辞書である。このウェブ辞書には，４つの対訳言語，英-タイ，日-タイ，独-タイ，仏-タイの４言語の辞書が搭載されている。日-タイ辞書の内容は，もともと SAIKAM というオンライン型編集ツールで作成されたものであった。データベースには，既に公開されている日英及びタイ英辞書のデータが使用されている。（ウッティチャイ(2000：121)，Pattara 他(2003)）。

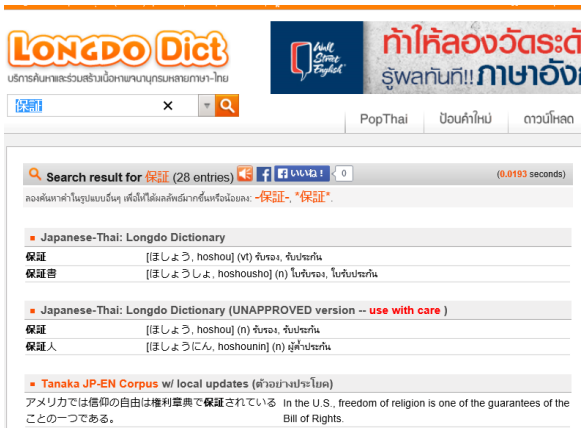

図４　「ロンドゥー」多言語辞書

２．４　携帯電話用の辞書アプリ

携帯用の辞書アプリはそのほとんどが無料ソフトであり，書籍の辞書に比べると信頼性に欠けるものが多い。

ア）「PDIC」は，2003 年に「Ikko's Practical PDIC Thai-Japanese Dictionary」というウェブ辞書として誕生したものであるが，現在では，日本人タイ語学習者向けのタイ日辞書の有料アプリで，Android や iPhone/iPad にも対応している。収録語数は 56,000 語，発音記号もある。

イ）「Imiwa? 」は，Pierre-Phi di Costanzo によって開発された，iPhone and iPod 用の多言語辞書である。現在対応可能な言語は，英語，フランス語，ドイツ語，スペイン語の４言語あり，機器に搭載されているアプリなので、いつでも無料で使用できる。

ウ）「Aedict」 は，3-4 年前に Martin Vysny によって開発された携帯電話用の辞書アプリで，2011 年までのダウロード数が 50,000 から 100,000 とされている。Jim Breen's EDICT のデータを利用している和英，英和辞典である。オフラインで操作可能，漢字を部首から検索できるなどの機能を備えている。

図５　携帯電話用の辞書アプリ（左から Imiwa?, PDIC, edict）

以上，各種の辞書について概観した。次に，タイ人日本語学習者が日本語を学習する際、どのような辞書を用いているかのアンケート調査について述べる。

３．アンケート調査の概要

アンケート調査の概要は以下のとおりである。

(1) 調査時期：2012 年 12 月 4 日から約 1 ヶ月間。

(2) 調査方法：対象者に対して協力依頼メールを送信の上，オンラインアンケーに回答してもらう方式

(3) 調査言語：タイ語

(4) 調査対象：タマサート大学在籍中の日本語学習者 91 名（150 名中）

(5) 調査内容：鈴木智美（2012）の質問項目を参考にしている。

(ア) 所持している辞書について（質問 1-4）

(イ) 各タイプの辞書の使用頻度について（質問 5-9）

(ウ) 辞書の使用目的について（質問 10）

(エ) 辞書に関する一般の知識について（質問 11-14）

(オ) 自分の辞書の使用状況とその評価について（質問 15-16）

(カ) 欲しい辞書のイメージについて（質問 17）

タマサート大学で日本語を学んでいる学生 150 名にアンケート調査への協力依頼メールを送信したところ，91 名から回答を得た。回答者の日本語学習レベルを学年で示すと 5 つのグループに分類できる。専攻２年生(Ｍ２とする。以下同様)：20 名，専攻 3 年生(Ｍ３)： 21 名，専攻 4 年生(Ｍ４)：18 名，1 年留学経験者 5 年生(Ｍ５)：18 名，副専攻(non)：14 名となり，回答者の日本語レベルは初級から超級までのレベルにわたっている。

以下，辞書使用の実態を調査内容に沿って述べる。

３．１　所持している書籍の辞書について

質問 1 から 4 で，所持している書籍の辞書について質問し，それぞれどのような辞書を使用

しているかを調べた。結果は以下のとおりである。

表２　所持している書籍の辞書の使用

自分が所持している書籍の辞書	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
回答者総数	(20)	(21)	(18)	(18)	(14)	(91)	100
日タイ辞典	14	12	17	14	11	68	74.73
漢字辞典	9	15	13	12	7	56	61.54
タイ日辞典	7	6	8	9	6	36	39.56
文型辞典	2	7	6	4	1	20	21.98
専門用語辞典	4	2	1	0	1	8	8.79
国語辞典	1	4	2	0	0	7	7.69
和英辞典	1	3	2	0	1	7	7.69
英和辞典	1	3	1	0	0	5	5.49
持っていない	2	1	0	0	1	4	4.40

91 名のうち，書籍の辞書を持っていない学生が 4 名、内訳は 2 年生に 2 名，3 年生に 1 名，副専攻の学生に 1 名であった。これは，辞書を使わないというわけではなく，皆携帯電話用の辞書アプリのみを使用しているものと考えられる。

持っている辞書の中で一番多いのは，日タイ辞典で 68 名（全体の%），次に漢字辞典が 56 名（%）である。タイ人日本語学習者にとっては，タイ日辞典の重要性はそれほど感じられないと言えよう。

次に電子辞書についてであるが，持っている学生が 65 名，持っていない学生が 26 名であった。

表３　電子辞書の所持律の使用

電子辞書	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
持っている	11	11	15	17	11	65	71.43
持っていない	8	10	3	1	4	26	28.57

持っている電子辞書の機能については，一番多かったのは和英・英和辞典，次に日タイ・タイ日辞典，3 位には漢字辞典である。同じ電子辞書の中にこの 3 つ，あるいは 2 つの辞書が入っていると考えられる。

次に携帯電話で使用している辞書のアプリについてであるが，91 名の回答者のうち，持っている学生が 80 名（88%），持っていない学生が 11 名（12%）となっている。この数字から見てわかるように，電子辞書よりも携帯電話用の辞書アプリの方が多く利用されている。

表４　携帯電話用の辞書アプリの使用

携帯電話用の辞書アプリ	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
持っている	14	17	18	18	13	80	87.91
持っていない	6	4	0	0	1	11	12.09

携帯電話用の辞書アプリの種類についても電子辞書と同様，和英・英和辞典，日タイ・タイ日辞典，漢字辞典の 3 タイプが最も多く使われている。学年別に見てみると，4 年生 5 年生の中上級学習者では，携帯電話用の辞書アプリを使わない人がいないという結果であった。

最後に，PC のオフライン辞書についてであるが，電子辞書と同じような状況で，約 7 割以上の学生が使用している。初級の学習者の利用者数は少ないが，学年が上がるにつれ，利用する人の割合が高くなっていることがわかる。

表５　PC のオフライン辞書の使用

PC のオフライン辞書	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
持っている	12	11	15	18	12	68	74.73
持っていない	8	10	3	0	2	23	25.27

３．２　各タイプの辞書の使用頻度について

以下の表は，辞書を使用する頻度を表すものである。

表６　各タイプの辞書の使用頻度

辞書の使用頻度	全然使わない	月に 2-3 回	週に 1-2 回	週に 3-4 回	毎日
辞書の使用頻度	5	4	10	**27**	**45**
書籍タイプの辞書の使用頻度	30	37	16	8	0
電子辞書の使用頻度	31	7	12	17	21
携帯用アプリ辞書の使用頻度	16	6	8	**21**	**40**
ウェブ辞書の使用頻度	1	11	26	28	24

本調査の 8 割以上の学生は，日本語専攻の学生であるため，7 割以上の学生が辞書を毎日使用していることは推測できる。ただ，3 分の 1 の学生は，書籍タイプの辞書や電子辞書を使用していない。代わりに，携帯電話用の辞書アプリやウェブ辞書を好んで使用するという結果となっている。

３．３　辞書の使用目的

辞書の使用目的についてであるが，以下の 9 項目を選択肢としたところ，多い順に以下回答が得られた

表７　辞書の使用目的

	辞書の使用目的	人数	(%)
1	漢字の読みなどを確認するため	**84**	92.31
2	授業の課題，作文やスピーチの原稿等を作るため	**82**	90.11
3	授業中，わからない単語の意味を調べるため	**80**	87.91
4	予習復習など日本語の勉強のため	77	84.62
5	勉強以外，娯楽などの書籍を読んだり映画を観賞したりするため	61	67.03

6	日本語の雑誌や新聞を読むため	51	56.04
7	文型文法を確認するため	48	52.75
8	日本人の友達とやりとりするメールを書くため	45	49.45
9	日本人教師に手紙やメールを書くため	32	35.16

本調査の対象者は**非漢字圏の学習者**であるため，辞書は漢字の読みなどを確認するために使用するものだと考えている学生が最も多いことがわかる。８割の学生が，授業で与えられた作文などの課題を書くために使用したり，授業中にわからない単語を調べたりするためにそれぞれ辞書を使っていることがわかる。

３．４　デジタル辞書に関する知識

ウェブ辞書には，日タイ辞書と国語辞書と多言語辞書の３つのタイプがあるが，それぞれの辞書タイプを知っているか，あるいは、それらの辞書を使用しているかについて質問をした。以下は，そのうち，日タイ辞書についての結果である。

表８　日タイのウェブ辞書の利用

	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
回答者総数	(20)	(21)	(18)	(18)	(14)	(91)	100
http://dict.longdo.com/	14	19	16	18	11	**78**	85.71
http://www.jtdic.com/	10	16	14	17	8	**65**	71.43
http://www.siamkane.com/	8	14	12	15	5	54	59.34
http://www.j-doradic.com/	13	10	10	8	5	46	50.55

半数以上の回答者は，オンラインの日タイ辞書を利用していた。

では，オンライン国語辞典や和英辞典はどうかというと，以下に結果を示すように，知っていることは知っているが，日タイ辞書ほど広く知られていないことが分かる。

表９　オンライン国語辞典や和英辞典の利用

	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
回答者総数	(20)	(21)	(18)	(18)	(14)	(91)	100
http://dic.yahoo.co.jp/	15	13	14	14	3	**59**	64.84
http://dictionary.goo.ne.jp/	6	16	11	11	8	**52**	57.14
http://jisho.org/	2	9	1	3	3	18	19.78
http://www.excite.co.jp/	1	3	2	1	1	8	8.79
WWWJDIC	1	2	0	2	3	8	8.79

最もよく知られているのは，「Yahoo オンライン辞書」と，「goo 辞書」である。「エキサイト辞書」はあまり知られていない。また，和英辞典の「Denshi Jisho」や多言語辞書の「WWWJDIC」は，ほとんどの学習者には知られていない存在であるということが分かった。

次に，携帯電話のアプリケーションとして利用される辞書については，7 つのアプリケーションについて調査した。約半数の学習者が知っていたものは，以下の 3 つであった。

表１０　オンライン国語辞典や和英辞典の利用

	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
回答者総数	(20)	(21)	(18)	(18)	(14)	(91)	100
「Jtdic」日タイ（オフライン）	8	14	14	15	7	58	63.74
「Longdo」多言語（オンラインのみ）	8	10	9	11	6	44	48.35
「Imiwa?」和英辞書	7	11	10	9	5	42	46.15

「Jtdic」は，ネット環境がなくても検索できるが，「Longdo」はネット環境が必要である。また，「Longdo」は，タイ語訳が少ないというところから見ると，日タイ辞書としてではなく，日英，または英タイの辞書として活用されているということになる。「Imiwa?」は，iPhone，iPad に対応している無料でダウンロードが可能な多言語辞書であるが，タイ語訳はまだない。こうして見ると，タイ人日本語学習者の間では，未完成なものであってもタイ語訳が付いている辞書のほうが好まれる。

最も入手しやすい書籍の辞書で，タイ語訳があるものについても，学習者がどのぐらい持っているのかを調べた。その結果，30 年前から長年にわたり定番と言われていたコーサ・アリヤの「日タイ辞典，タイ日辞典」については，現在持っている学生は少なく、既に時代遅れとなりつつある。学習者が実際に必要としているのは，持ち運びやすく，必要最小限のもので十分と考える人が多いようである。

表１１　学習者の書籍の辞典の所持率

	M2	M3	M4	M5	non	合計	(%)
回答者総数	(20)	(21)	(18)	(18)	(14)	(91)	(100)
ソーソートー日タイ辞典 40000 語	14	9	15	7	10	55	60.44
講談社 compact kanji guide（タイ語版）	3	10	6	11	3	33	36.26
日本語基本文型辞典（タイ語版）	2	6	6	2	1	17	18.68
講談社 Furigana Japanese Dictionary（タイ語版）	2	3	1	4	2	12	13.19
『日タイ辞典』コーサ・アリヤ	1	4	3	2	1	11	12.09
『タイ日辞典』コーサ・アリヤ	0	2	2	2	0	6	6.59

３．５　現在よく使用している辞書について

これまで，持っている辞書や，知っている辞書についても尋ねたが，合わせて実際に最もよく使用している辞書はどういうものかについて聞いたところ，以下の回答が得られた。

表１２　学習者が今よく使用している辞書

書籍	電子辞書	ウェブ辞書	携帯電話アプリ	ＰＣオフライン	書籍
62	37	65	103	4	271

最もよく使用している辞書は，携帯電話のアプリ辞書で，次にウェブ辞書と書籍の辞書の順となっている。電子辞書の使用は３割程度にとどまっている。

一つの辞書しか利用しないと回答した人は，ほとんどが副専攻の学生や初級の学生である。４つ以上の辞書を使用している学生の多くは、積極的な学習態度を示している者や留学経験者が多かった。

持っている辞書にはどのような利点があるかという問いに対する回答を以下のように簡単にまとめた。

表１３　使用している辞書への学習者の感想

辞書タイプ	良い点	悪い点
書籍の辞書	分かりやすい日本語で書かれている，使用法の解説が丁寧である，漢字辞典は探したい字に関連のある他の字も知ることができる，作文を書く時，文型辞典が役立つ、価格が手頃である	重くて携帯用ではない、用例がない
電子辞書	詳しい解説がある，関連した役立つ情報がある，専門用語がある，音声情報がある	外国語（日本語または英語）で説明されている
ウェブ辞書	詳しい解説がある，関連した役立つ情報がある，専門用語がある，音声情報がある	語彙数，用例が少ないまたは無い，誤訳がある，信頼性に欠ける
携帯電話用の辞書アプリ	持ち運びやすい，使いやすい，漢字を書いて調べられる，和英辞書の場合は収録語数が多く用例がある，操作しやすい，オフラインで使用できる，いつでもどこでも使える	タイ語訳の辞書は充実していない，オフラインで使用できない

調査の回答者 91 人中 50 人が書籍の辞書を 1 冊しか持っていないと回答しているところから見ると，書籍の辞書の利用者は少ないと思われる。携帯用の辞書アプリとウェブ辞書を組み合わせて利用する学生が多いようであるが，書籍の辞書も携帯用の辞書アプリも見出し語が 4–5 万語程度なので，中上級レベルの学生の場合，いくつかの辞書を組み合わせて利用しなければ，日本語で書かれている文章を解読するには不十分であろう。

３．６　今持っている辞書にはないが，あればいいと思っている要素

学習者が求めている辞書はどのようなものかについて質問したところ，様々な意見が出された。大きく分けて，コンテンツに関する要望と操作機能に関する要望の 2 つにまとめる。

ア）コンテンツについて

訳：　タイ語訳，連語，複合語の訳，用例

漢字：　漢字の由来，書き順

文法：　品詞，共起可能な助詞，文型，似た表現との比較等の語法解説

語彙情報：反対語，類義語，含意（プラス，マイナス），使われる文脈

音声：　発音，アクセント
+α：　新語，俗語，若者言葉，専門用語，定型表現，言い換え表現，
イラスト　等。

イ）操作機能について

入力：　手または指で書ける機能
環境：　オフラインで使用できる（「Longdo」など）
性能：　書いた字が正確に認識できる，スピーディーに対応
詳しい情報へのジャンプ機能，部首による検索，文章の翻訳機能，
音声認識機能　など
外見：　綺麗なモデル

このことから，今の若者の考えとして学習過程において身につけていく，語彙力，構文解析力も，辞書に求めようとしているということが言えるだろう。

次に，学生が辞書を活用する際，どのような工夫をしているかについて少し触れておきたい。以下は，１年間日本に留学している学生からの回答である。ここから、用途別にいくつもの辞書を使い分けていることがわかる。

（回答よりそのまま抜粋）

書籍の辞書はあまり使いません。いつも使用しているのは，Iphone の imiwa?，midori，jtdic です。パソコンの前で作業している時は，http://dict.longdo.com/ http://dic.siamkane.com http://dic.yahoo.co.jp/ http://dictionary.goo.ne.jp/を利用します。用例を検索する時は，Google を利用します。電子辞書では，Casio Ex-word XD-B8600 の機種を利用しています。

現在，日本の大学に留学中の学生の一人は、自分の辞書の使用状況を次のように説明している。まさに，学習スタイルを反映している証言である。

（回答よりそのまま抜粋）

1. 書籍の辞書，電子辞書，及びケータイ用辞書アプリをどれも使用するが，ウェブ辞書は使用したことがない。
2. 調べたい単語に応じてそれぞれの辞書を使い分けている。
3. 未知語に出会ったら，**まず電子辞書に相談する**。それでも，意味がよくわからなかった場合，**次に見るのは書籍の日タイ辞典である**。また，英語の訳を知りたい時にも電子辞書を使用する。
4. ケータイでは，**グーグル翻訳を利用する**。特にわからない漢字があれば，指で書いて読み方を調べる。読み方がわかったら，今度は書籍の辞書または電子辞書で調べる。携帯電話用の辞書アプリで意味を調べないのは，訳がおかしかったり，間違っていたことがあり，信頼できるものが少ないからである。
5. 書籍の辞書，電子辞書，携帯電話用のアプリのどれにも載っていない場合は，**大型書籍の辞典で調べる。**大抵そこには探したい単語がみつかる。

6.　タイ語から日本語訳を調べたい時は，やはり**書籍タイプのタイ日辞書**を使用する。電子辞書や携帯電話用の辞書アプリに求めることができないからである。

7.　携帯電話のアプリはいろいろあるようだが，ほとんど**フリーダウンロード版をオフラインで使用する**ことが多い。

8.　最近，**書籍の辞書を使用する人が減ってきている**のではないかと思っている。

４．　考察

アンケートの結果を踏まえ，学習者の辞書使用状況，学習者が評価している辞書の要素，学習スタイルの変化という，3 つの観点から考察する。

４．１　学習者の辞書使用状況

1）**学習者は書籍の辞書をあまり使用しない。**鈴木智美（2012）の調査と同様の結果となった。

2）初級学習者は辞書の必要性を感じていないが，３−４年生になると，次第に辞書の使用頻度が高くなり，電子辞書やウェブ辞書が重要なツールであるという認識を持ち始めるようである。ただし，日本に留学している学生と異なり，**電子辞書はそれほど浸透していない。**これは，タイにおける電子辞書市場の規模が小さく，良質の日タイ，タイ日専用の電子辞書がないことに起因すると思われる。

3）留学経験者はみな電子辞書を持っているようであるが，実際の使用となると，**オンライン辞書の利用が多いことがわかった。**しかも，日本発の国語辞典ではなく，タイ人作成のタイ人向けのオンライン辞書を利用している。117 名の留学生を調査対象とした鈴木智美（2012）は，6 割の回答者は，「オンライン辞書を何らかの形で使用している」とし，「オンラインでの辞書の使用は，学習者に広く行き渡りつつある辞書使用の形態として，注目すべき 1 つの傾向を示している」と指摘している。タイの学生も同様の傾向が見られたが，アクセスする辞書内容ほ異なると思われる。

4)**9 割の学生が携帯電話用の辞書アプリケ―ションを知っていてよく使用している。**これは，「留学生回答者の 7 割は携帯電話用の辞書アプリケーションは使わない」という鈴木智美（2012）と反対の結果を示している。ただ，タイ人向けの良質な携帯電話用の辞書アプリケ―ションについては今後の改良を待たなければならない。

総合的に見ると，大学生であるタイ人日本語学習者は，持ち運びやすい，低コスト，母語で検索できる，便利で使いやすいものを優先し，書籍の辞書の使用は減ってきている傾向にあるということが言えよう。

４．２　学習者が評価している辞書の要素

現在よく使用している辞書の良い点と，あればいいと思っている要素で高く評価されている項目は以下のとおりである。

1）母語訳のある辞書，日タイ辞書がよい

2）持ち運びやすい，使いやすい，短時間で調べられる

3）言葉に関するすべての情報をひとつのケータイ辞書に搭載されていること

4）無料または低コストのもの

しかし，残念ながら現時点ではこれらの点を全て満たすような万能な辞典は存在しない。よっていくつかの手持ちの辞書を有効に活用できるように，学習者は自分で工夫する必要がある。これに関して、教師は、良質な辞書にはどのようなものがあるかを熟知し，情報として学習者に提供する必要もある。

４．３　学習スタイルの変化

タイ人日本語学習者は非漢字圏であるため，日タイ辞書，漢字辞書が必要である。最近では，読みをつけてくれるひらがなサイトなどのおかげで，漢字に対する嫌悪感が以前より和らいだようである。また，漢字の読み方も意味もわからない場合，携帯用の辞書があると非常に便利だと感じるため，多くの学生は，携帯電話用の辞書アプリケ―ションを利用するようになる。ただし，携帯電話用のアプリケ―ションはほとんどが和英辞典なので，学生は英語で日本語を学習せざるを得ない状況にあり、不便さを感じている。

最近では，便利で使いやすい辞書が様々な形態で現れてきており，学習者は，既に存在している良質な書籍タイプの国語辞典，和英辞典，漢字辞典を購入する必要性を感じなくなったのではないかと思われる。タイの市場に，このような良質な電子辞書が普及しない原因としては，持ち運びやすさとコスト面で需要を満たす商品が開発されていないからであろう。

そこで，学習者はより安価，便利で手軽なものを求め，楽に学習したいという学習スタイルへ移るようになった。良質な辞書を入手し，机に向かい，日本語をより深く正しく理解しようという学習スタイルはもはや時代遅れと言えるかもしれない。

ＰＣや携帯などに向き合う時間が増えているせいか，人との会話が極端に少なくなっているせいか，何もかもをＩＴの機能に頼り，本来，教師や友人との会話の中で覚えていくことや，何度も失敗をしながら身につけていく言葉の使い方やニュアンスまでも，辞書で身につけようとしている学生が多いように感じられる。要領よく語彙力を身につけることも大学生には必要だと思われるが，持ちうる限りの語彙力で何とか気持ちを伝えたり，状況を表現したり，知らない言葉も想像力を働かせて理解する力も大切である。

今後の語彙習得の分野においては，多機能を備えた良質の辞書を学習者に提供すると同時に，社会人としてコミュニケーション能力を身につけさせることができるよう，教師の指導法や教科書も再検討する必要があろう。

５．　終わりに

日本語学習に必要な辞書の使用状況が変化している。本アンケート調査によって得られたタマサート大学における日本語学習者 91 名のデータから，以下のことが明らかになった。

１．　自分の手でめくる書籍の辞書から，指先で何でも書ける、持ち運びに便利な辞書へその使用が移行しつつある。書籍の辞書を持っていても使用しない学生もいる。

2.　タイ国内においては良質な電子辞書アプリの使用が少なく，オンラインで無料提供の多言語辞書，個人またはコミュニティーによって作成された日タイ，タイ日のウェブ辞書を頼りにしている学習者が多い。

3.　今後は，スマートフォン等のケータイ用辞書アプリの使用がさらに増えると考えられる。しかし，このタイプの辞書に対し，漢字検索，母語の訳，豊富な用例，明解な文型説明，類似表現，社会言語学的な要素のほか，音声機能，ジャンプ機能，翻訳機能などを備えて欲しいと

いう，実に様々な要望がある。いわゆる，一つの辞書がオールマイティな存在であってほしいという発想が生まれている。しかしながら，「世の中にただのものはない」「いいものは高い」という事実を認識した上で，辞書を使用してもらいたいものである。特に学習者にとって最も大切なのは，複数の良質な辞書を所持し，必要に応じて使い分ける技を身につけることであろう。

4.　デジタル時代に合わせて変化した学習者の学習スタイル，つまり収録されているコンテンツや機能を，またウェブ上にある国語辞典，和英・英和辞典やコーパスのデータベースを効率よく使いこなし，辞書の質よりも使い勝手を重視する学習者に合った教育方法を再検討する必要がある。

参考文献

ウッティチャイ　アムポーンアラムウェート・相澤彰子・大山敬三・タサニー　メーターピスィット(2000)「 “SAIKAM”：インターネット上での協調的な対訳辞書構築環境の実現」学術情報センター紀要第１２号，101-109.

鈴木智美（2012)「留学生の辞書使用についての実態調査－東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析－」『留学生日本語教育センター論集 38：1-21，2012

峰岸真琴（2010)「辞典とその電子化―タイ語を例に」AA 研究共同プロジェクト「語彙と文法」研究会報告要旨 1-8.〈www.aa.tufs.ac.jp/project/lexigra_20100123_01.pdf.〉

Pattara Kiatisevi, Vuthichai Ampornaramveth, Alexander I. Kovacs, and Haruki Ueno (2003) Searching in the Longdo Thai Online Dictionary Service. Retrieved from www.mm.co.th/~pattara/papers/longdo- intech.pdf.